

紀伊國名所圖會
三編

西之巻上
高野山

JL 4
1833
14



門 凡 々
1833
14



伊國名所圖會三編卷之四

高野山之部上目錄

總圖 山内大門口 不動坂口

全圖 山内

領地

臨幸

親王家 御登山

大臣家御登山 將軍家御登山

登山七路

雜事登

大門口

慈尊院村

下乘標石

町率都婆供養碑

下乘檄

慈尊院

町率都婆

七社明神

中橋氏 四所 庄

勝利寺

榎蒔石

雨壺山

追分

八町坂

天野神社

傍の宿

西行堂

團三郎碑

有王丸墓

子日權現社

龜甲隅守碑

小都知峯

二鳥居

古佐布村

梵字岩

應其池 地蔵堂

地藏堂

笠木坂

日光月光窟

矢之茶屋 地蔵堂

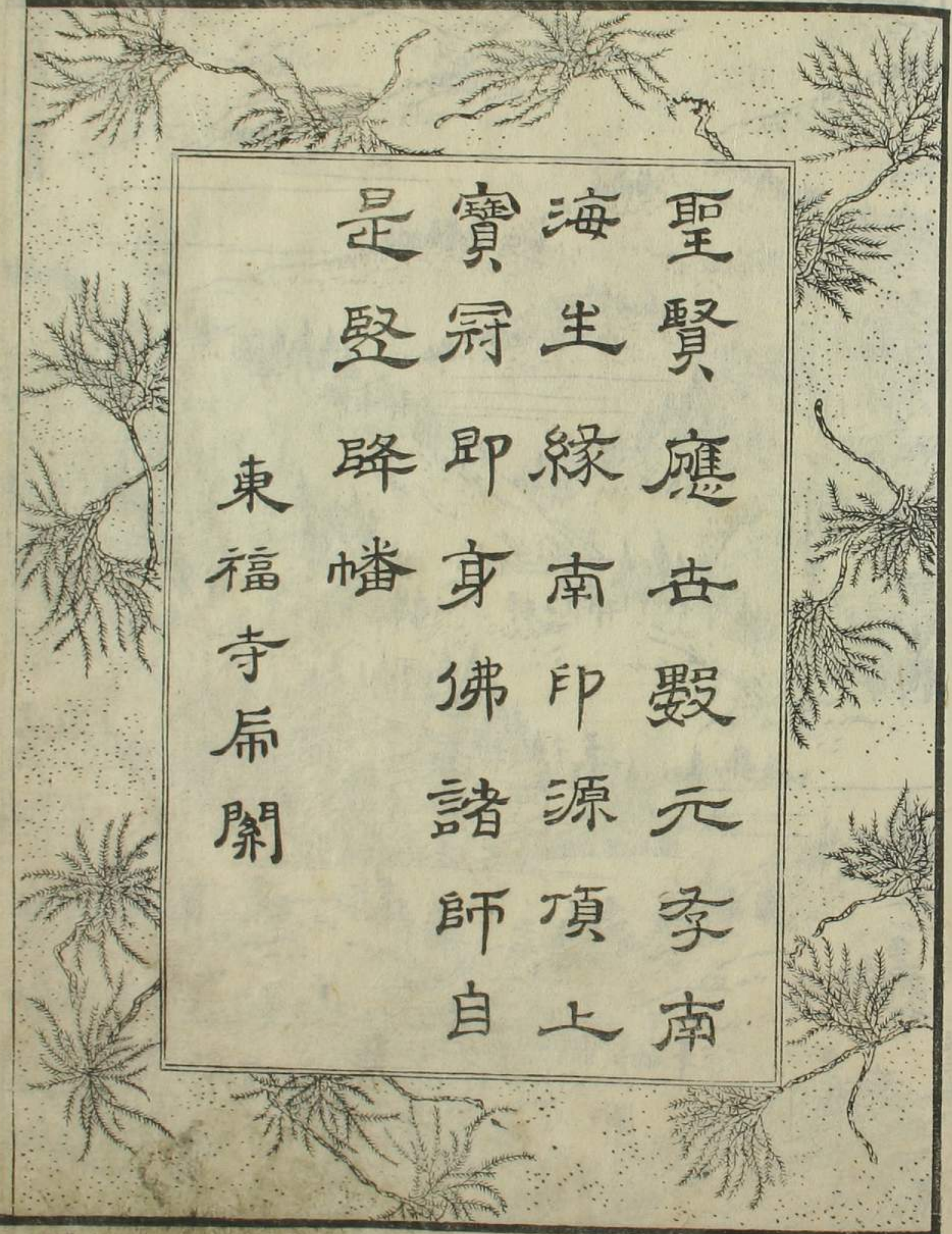
赤坂

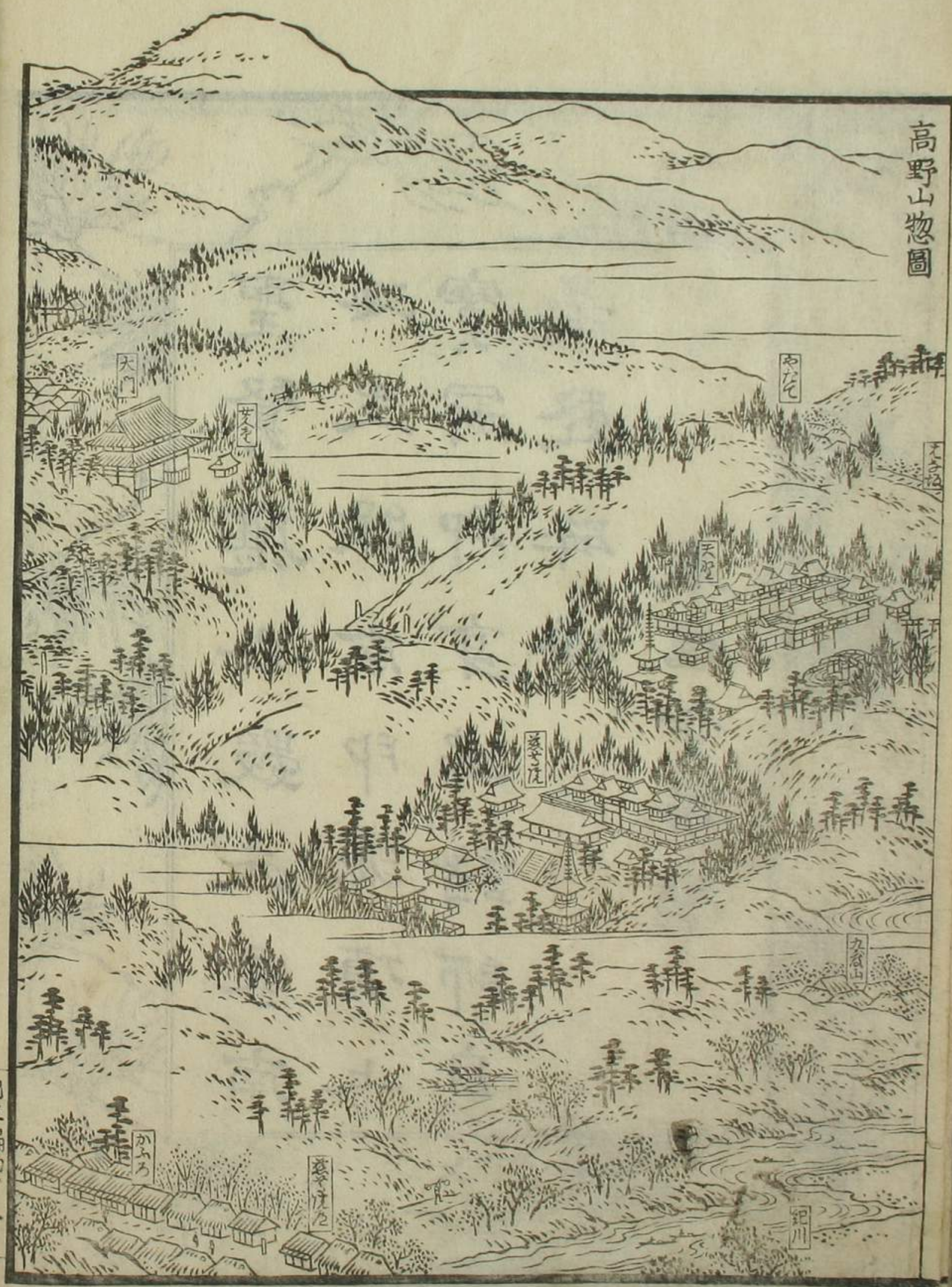
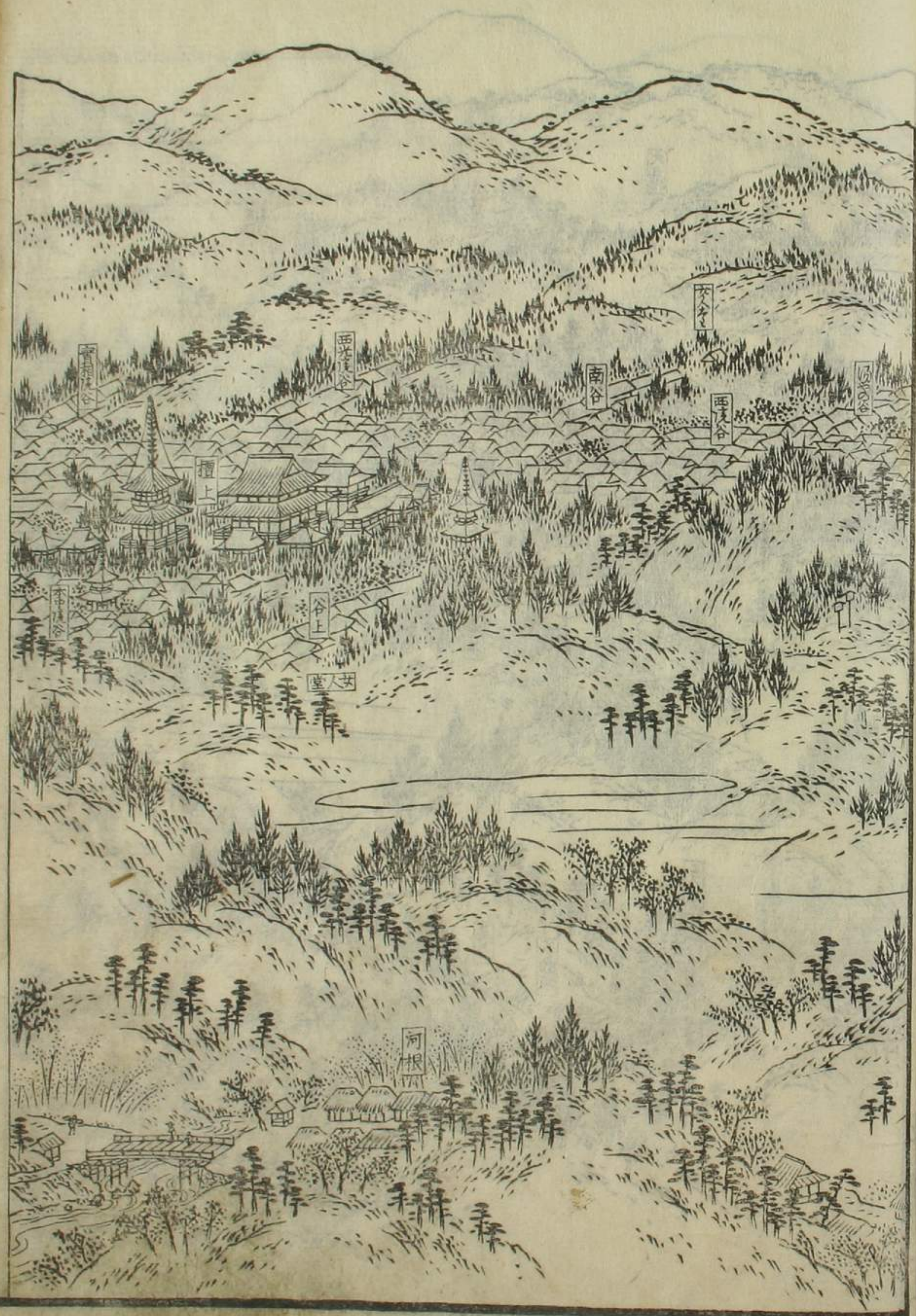
袈裟掛石

捨石

山人部屋	岩不動	四寸岩	作水	苜萱堂	生地氏齋	清水川	不動坂口	下乘牌	見越坂	猿渡	淚川
不動坂口總圖	兒瀧	不動橋	櫻茶屋	大師硯水	丁田天神社	二軒茶屋	女人堂	化粧坂	鳴子川	押上石	七色木
外不動	率都婆木	神谷辻	河根村	學文路	三軒茶屋	鑊不動	大門口總圖	関屋	雫の棚	鏡石	護摩壇
不動堂	外不動	万文轉	河根村	河根村	梅天神	慈尊院道		笑松			

聖賢應古數元季南
 海生緣南印源頂上
 寶冠即身佛諸師自
 是豎降幡
 東福寺扁關





丸例

一 此書地圖と全圖とを共に見ざる可敷く其の便よりあるを
 要す由地圖を幾何の大經全圖を卜向の明海と名
 へし大の日本海級字の全圖も是よりお取し其の諸島
 ありしを死をある及び其の諸島に散在する
 べきを移し一筆しし其の諸島をかくすも其の
 べきをかくすも其の諸島をかくすも其の諸島を

一 大洲の大海をかくすも其の諸島をかくすも其の諸島を
 かくすも其の諸島をかくすも其の諸島をかくすも
 其の諸島をかくすも其の諸島をかくすも其の諸島を
 かくすも其の諸島をかくすも其の諸島をかくすも
 其の諸島をかくすも其の諸島をかくすも其の諸島を

一 此書地圖の諸島をかくすも其の諸島をかくすも其の諸島を
 かくすも其の諸島をかくすも其の諸島をかくすも其の諸島を
 かくすも其の諸島をかくすも其の諸島をかくすも其の諸島を
 かくすも其の諸島をかくすも其の諸島をかくすも其の諸島を

一 此書地圖の諸島をかくすも其の諸島をかくすも其の諸島を
 かくすも其の諸島をかくすも其の諸島をかくすも其の諸島を
 かくすも其の諸島をかくすも其の諸島をかくすも其の諸島を
 かくすも其の諸島をかくすも其の諸島をかくすも其の諸島を

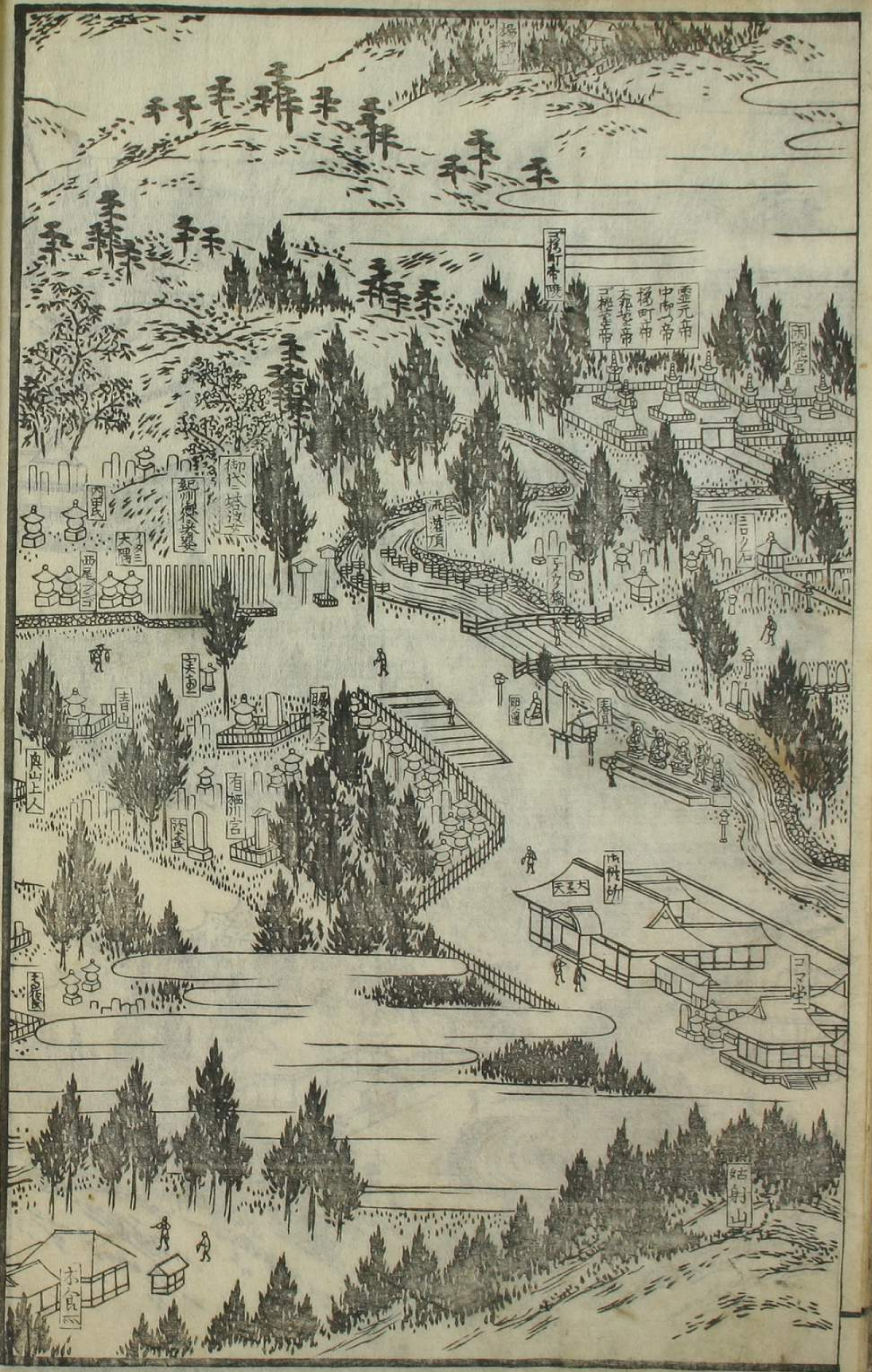


奥院かくのいんより
 大門口だいもんぐちまで
 の圖ず

其二



西



聖元帝
中興帝
後明帝
後周帝
後梁帝

御
御
御

三
編
四
五

結
村
山



其三

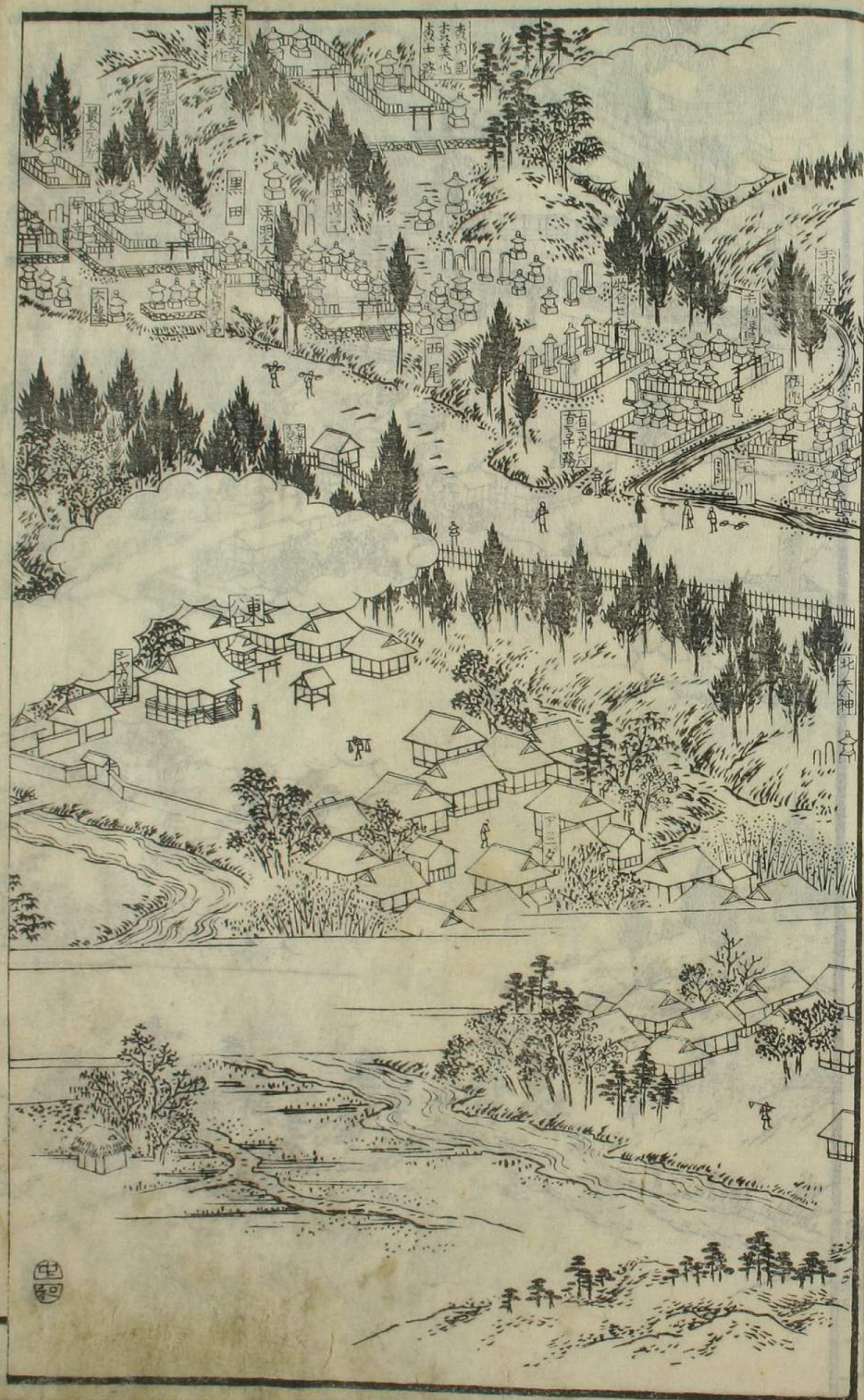
寄基祝
 とくまむ
 君の法
 なるおんか
 ちさし
 三つとて
 ちのち
 もととある
 法
 五川合

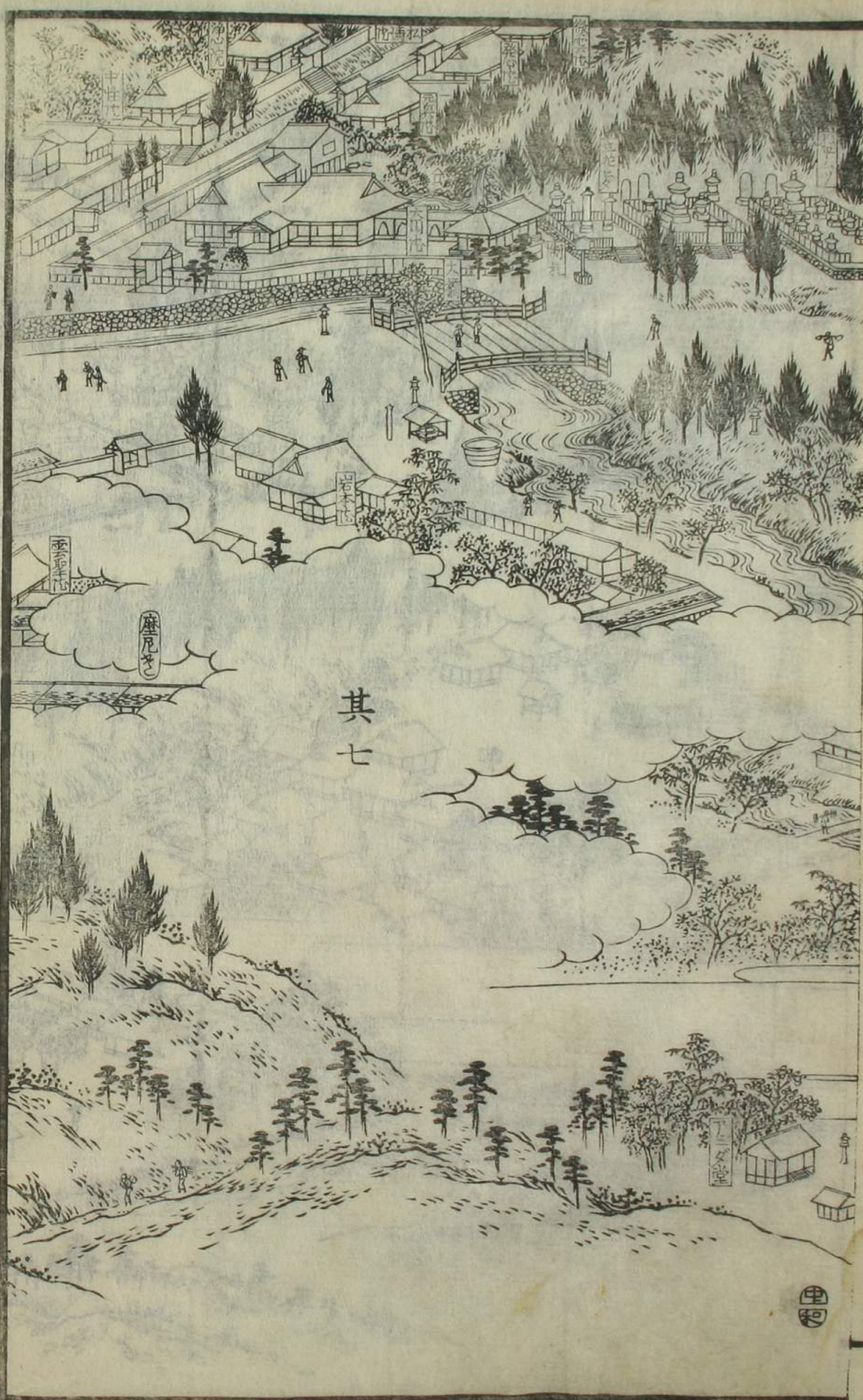


瓶三篇四十六



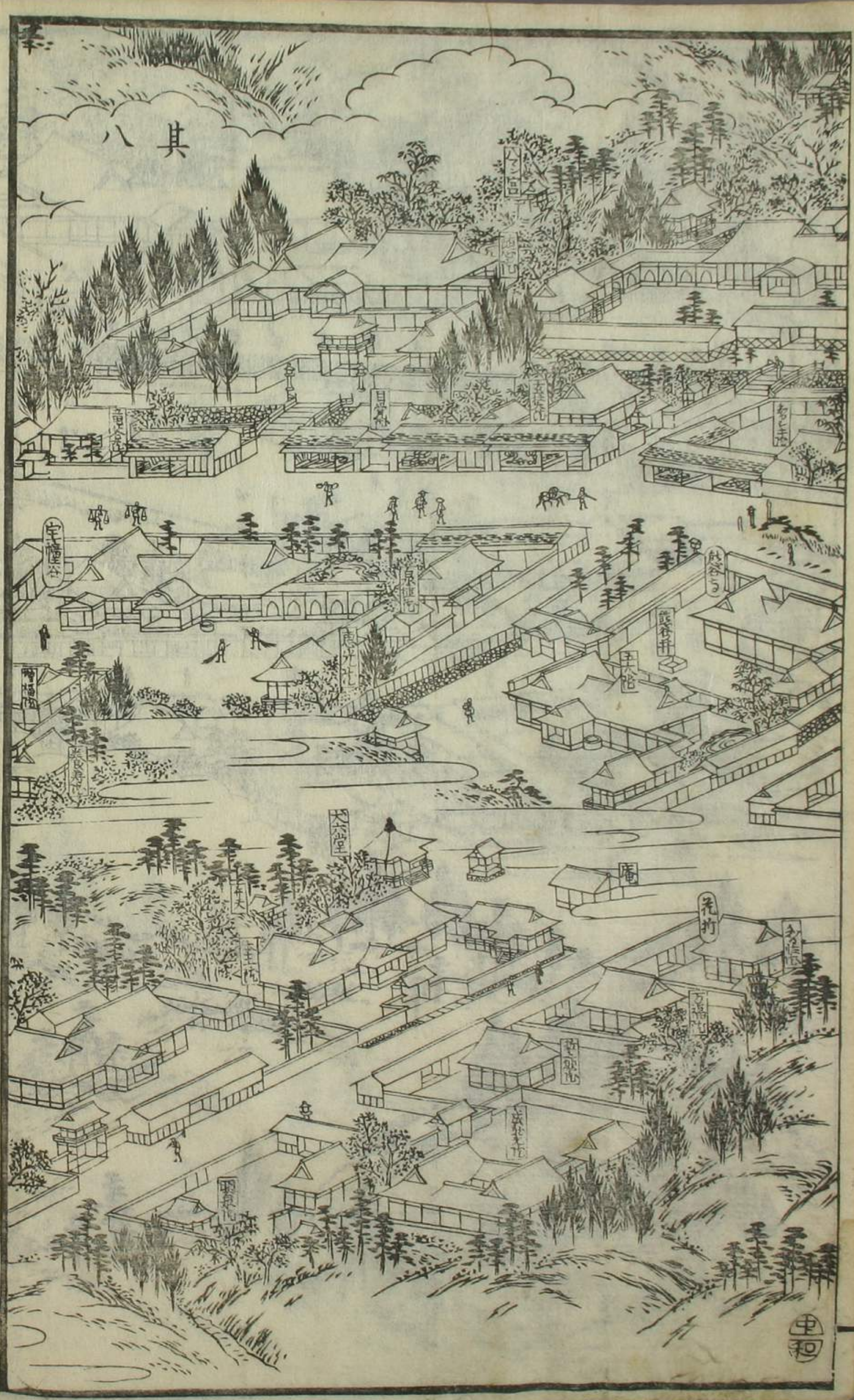
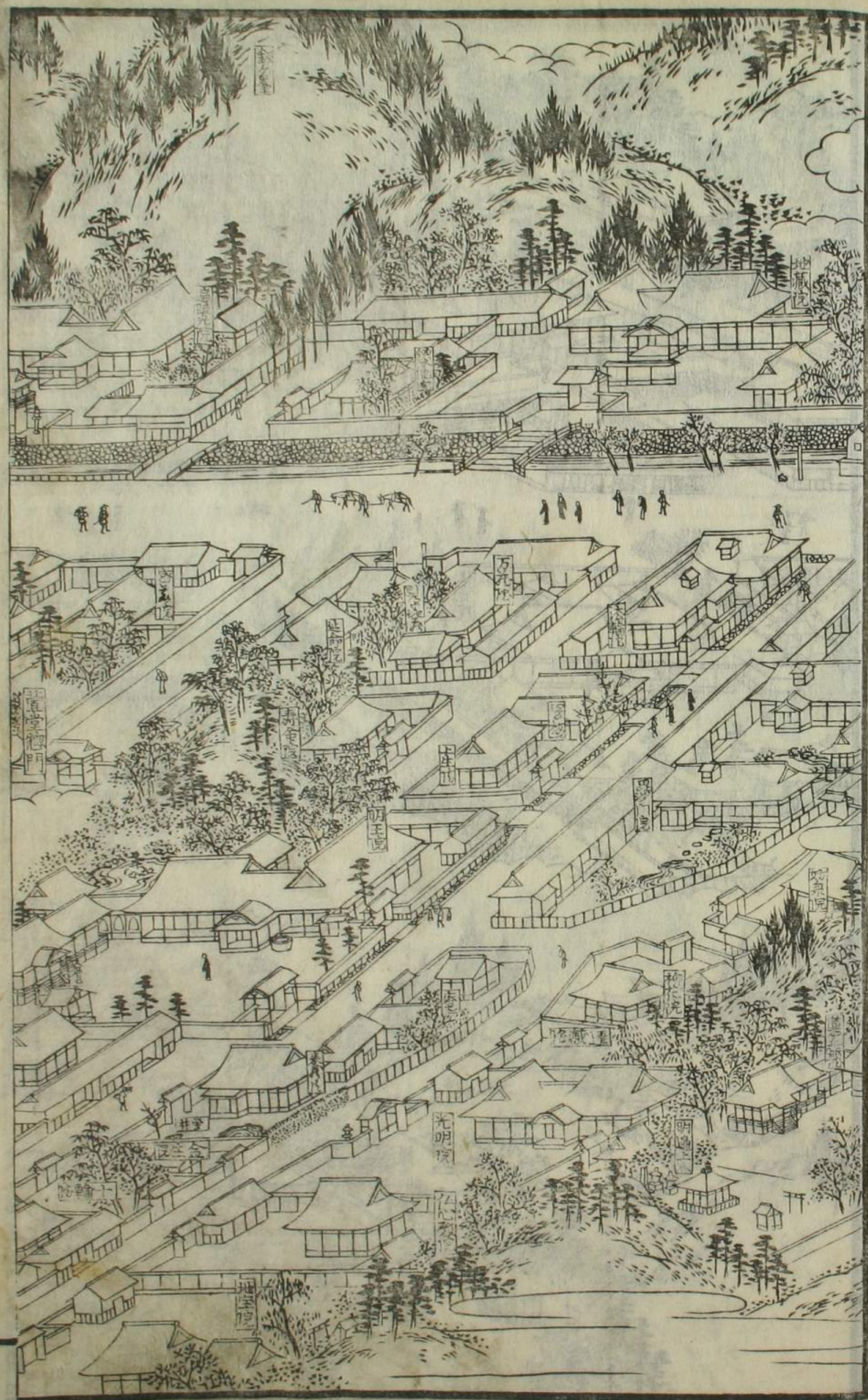






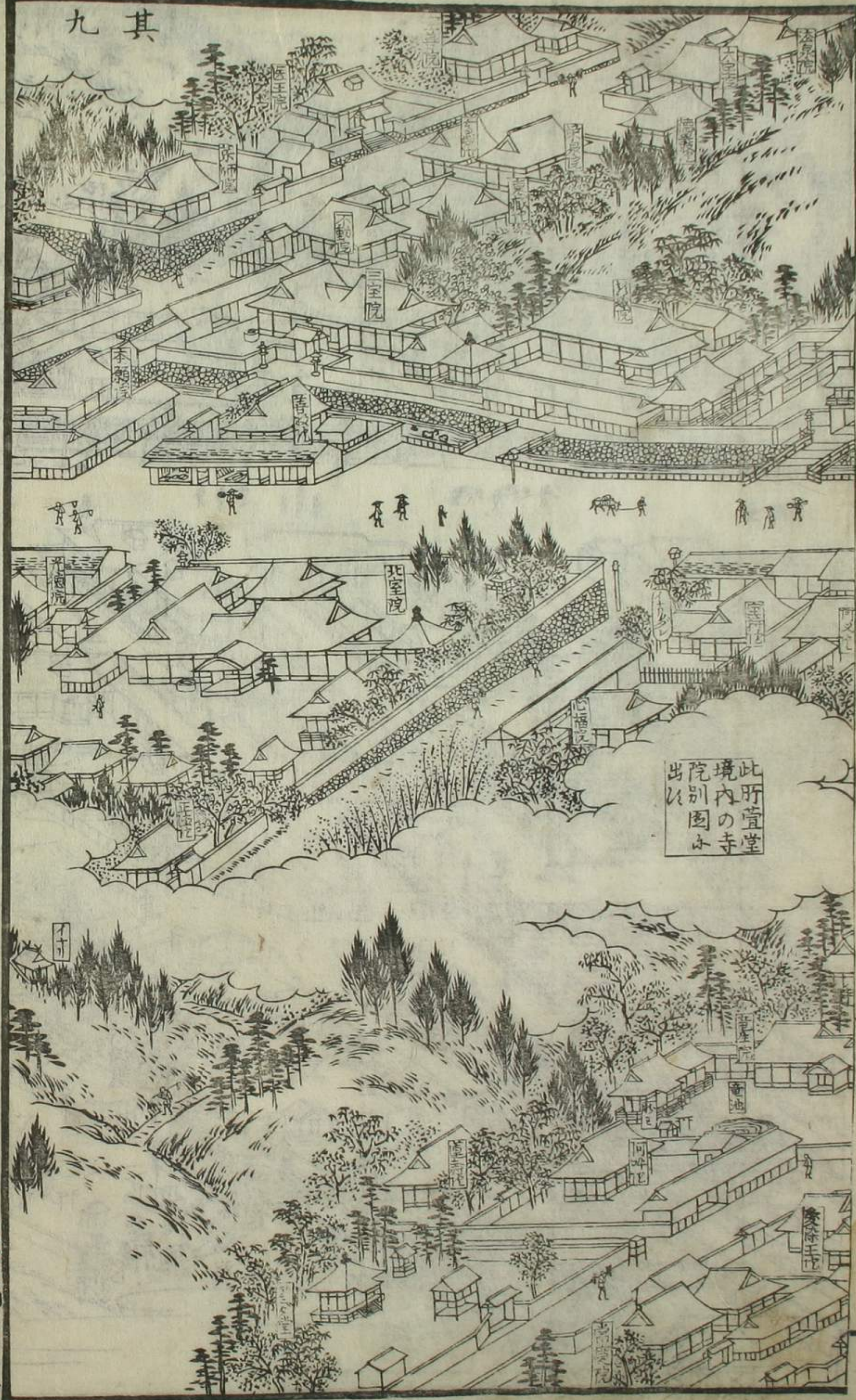
其七



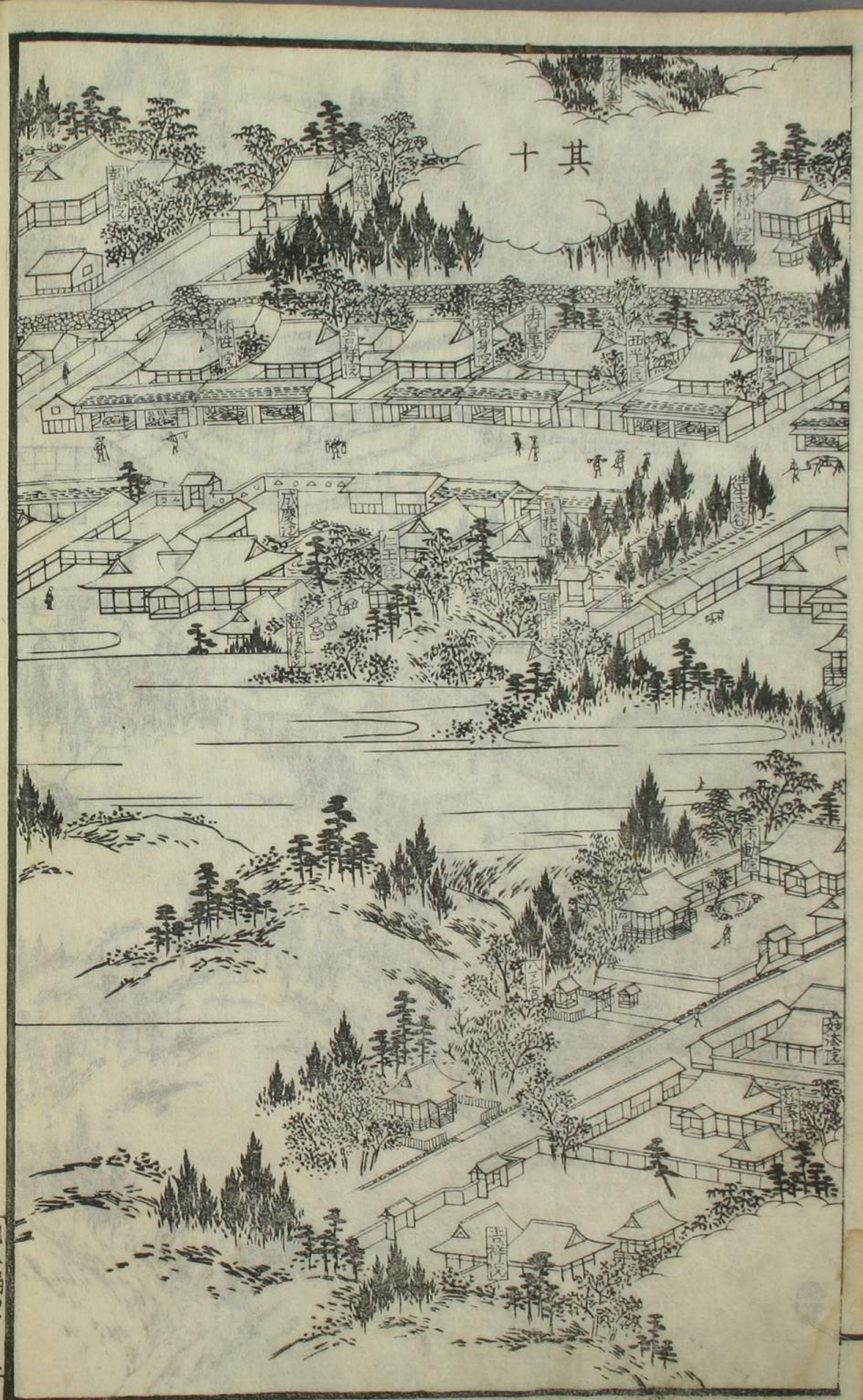
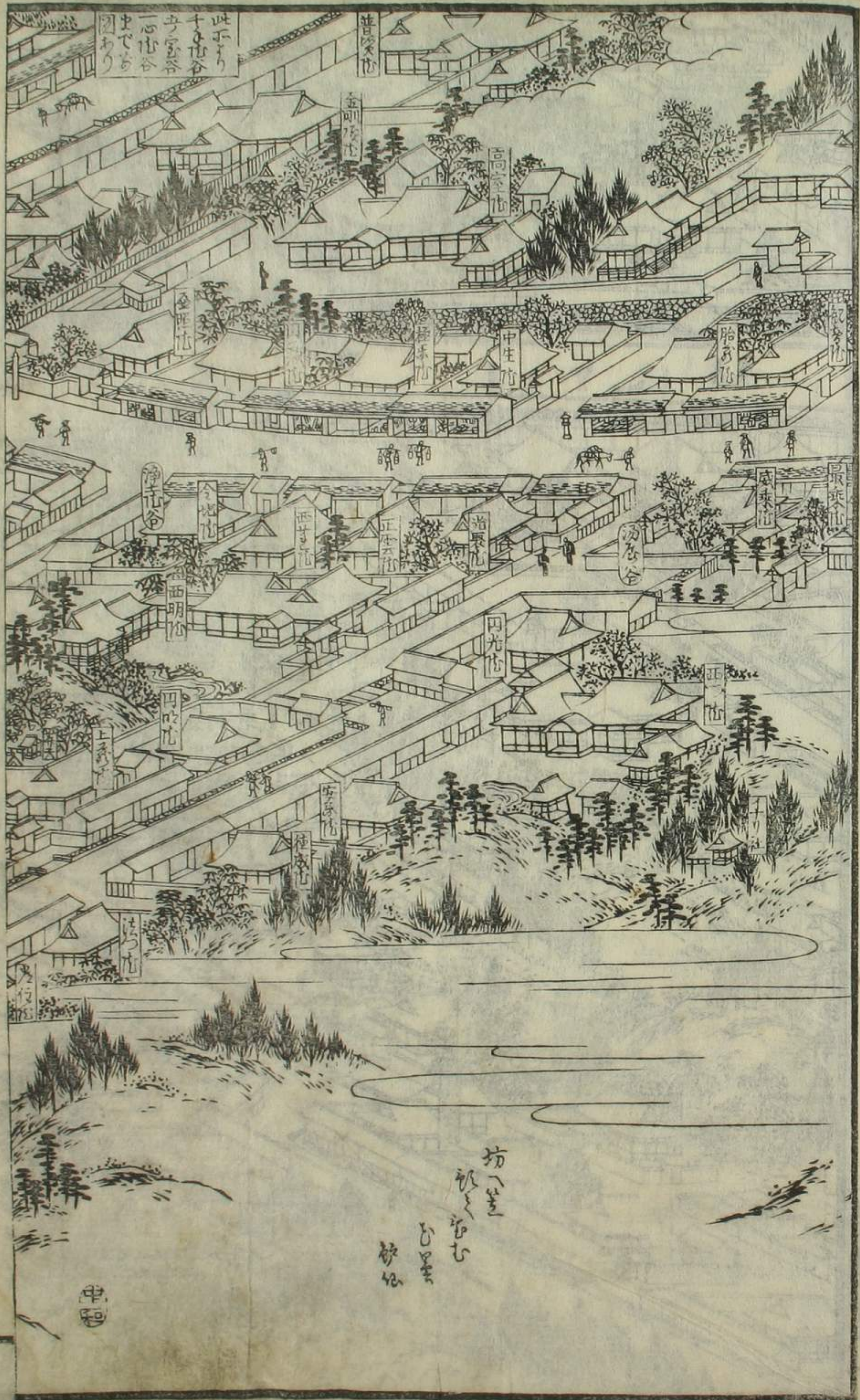


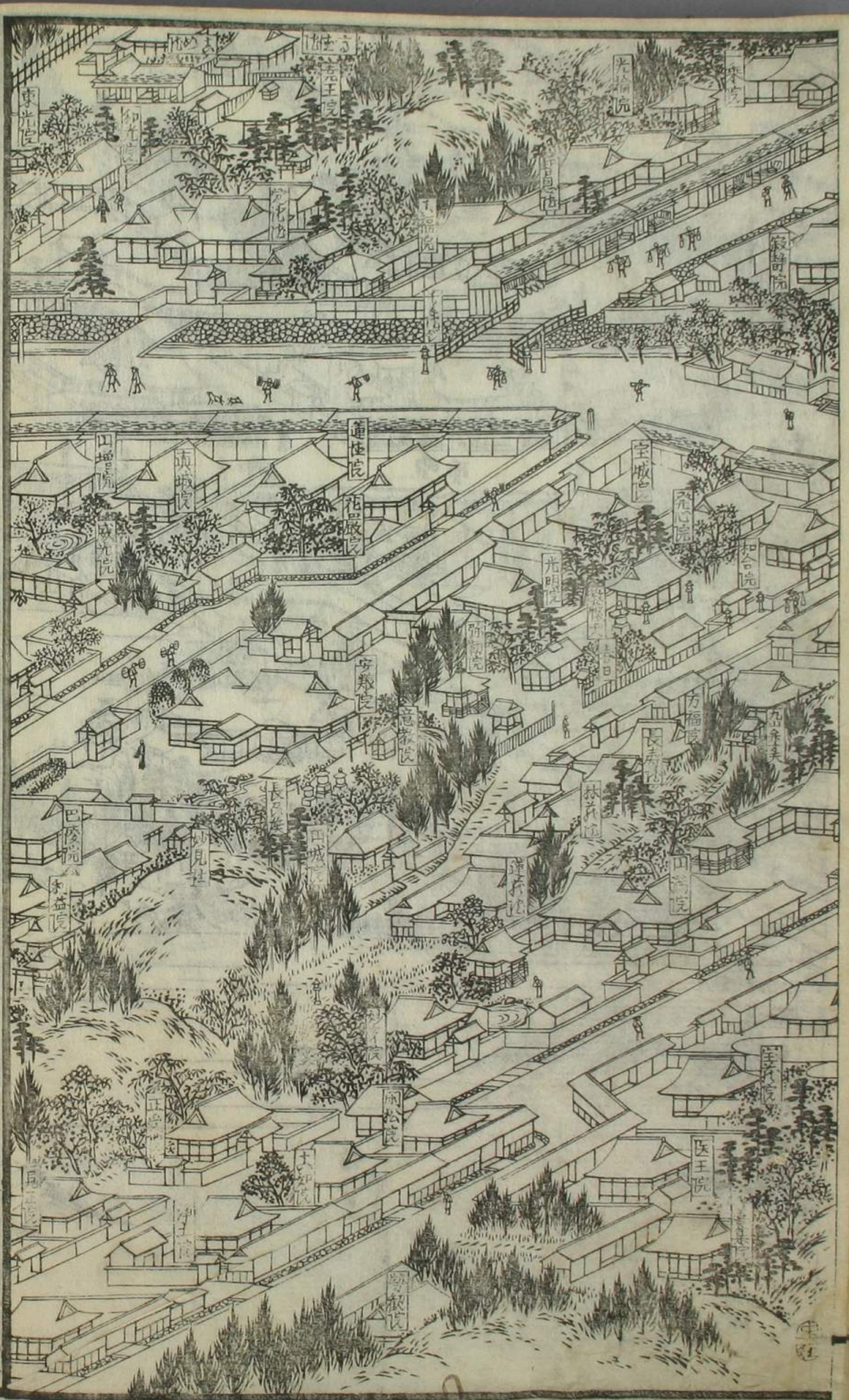
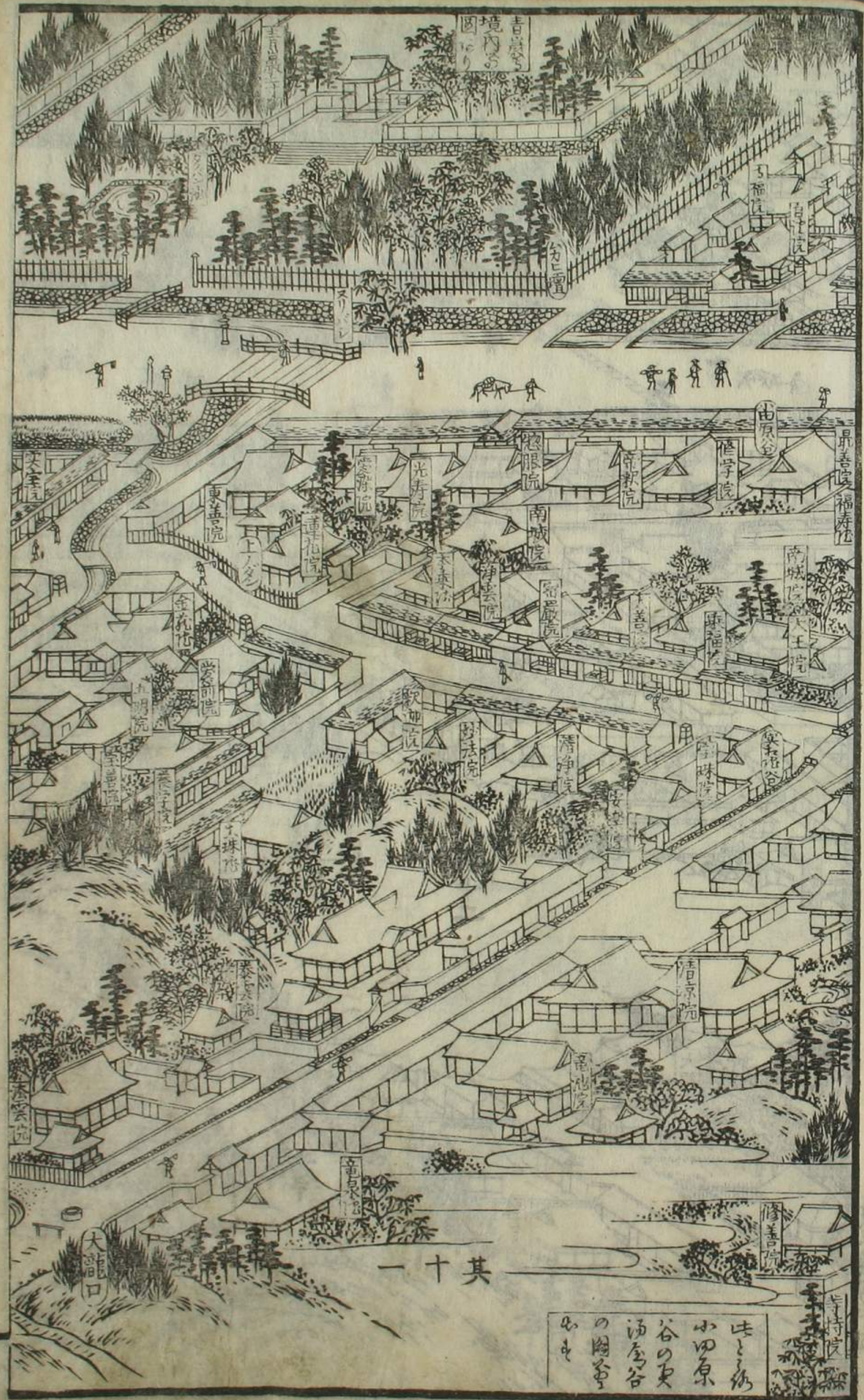


其九

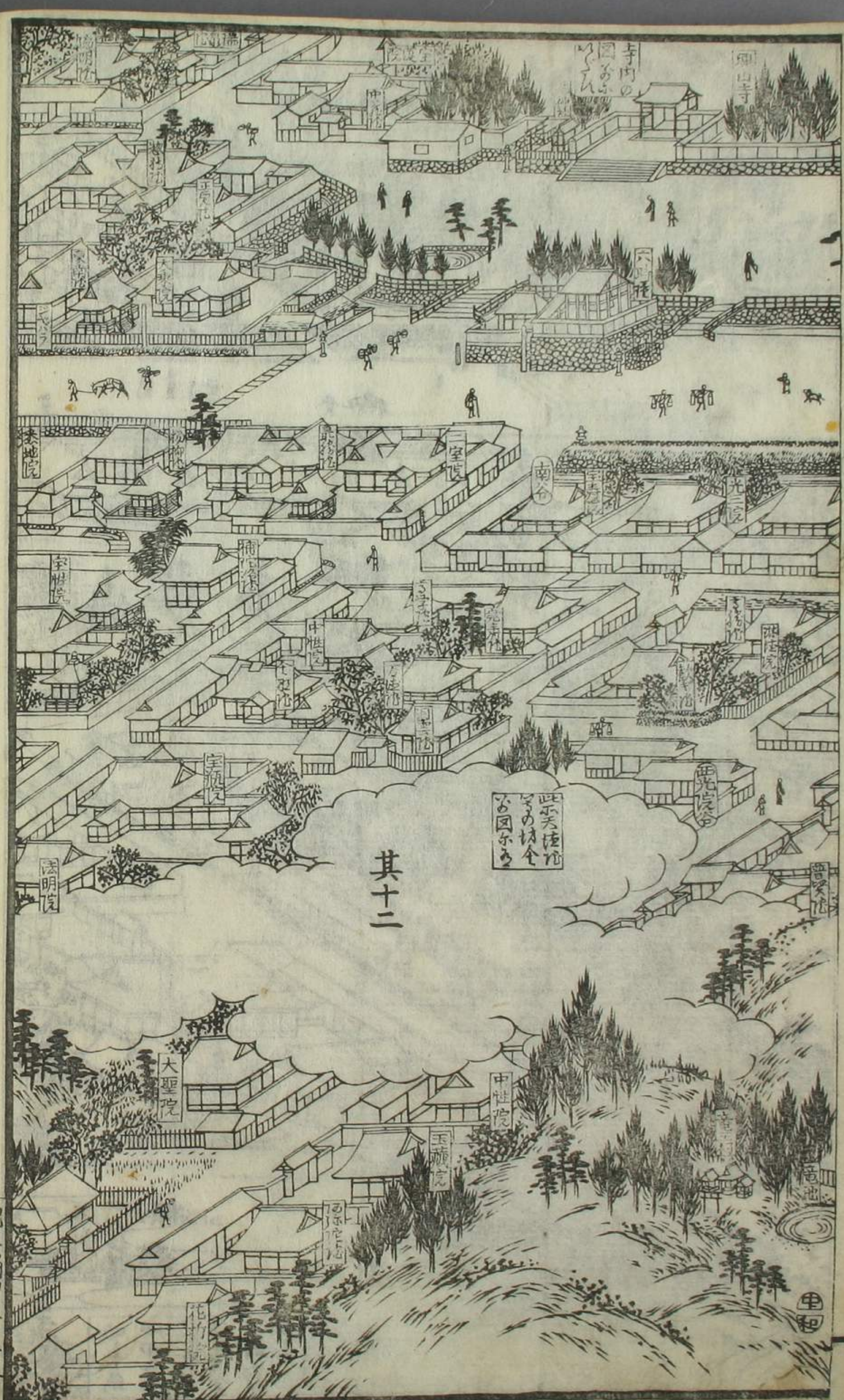


此所宣堂
境内の寺
以別園
出院





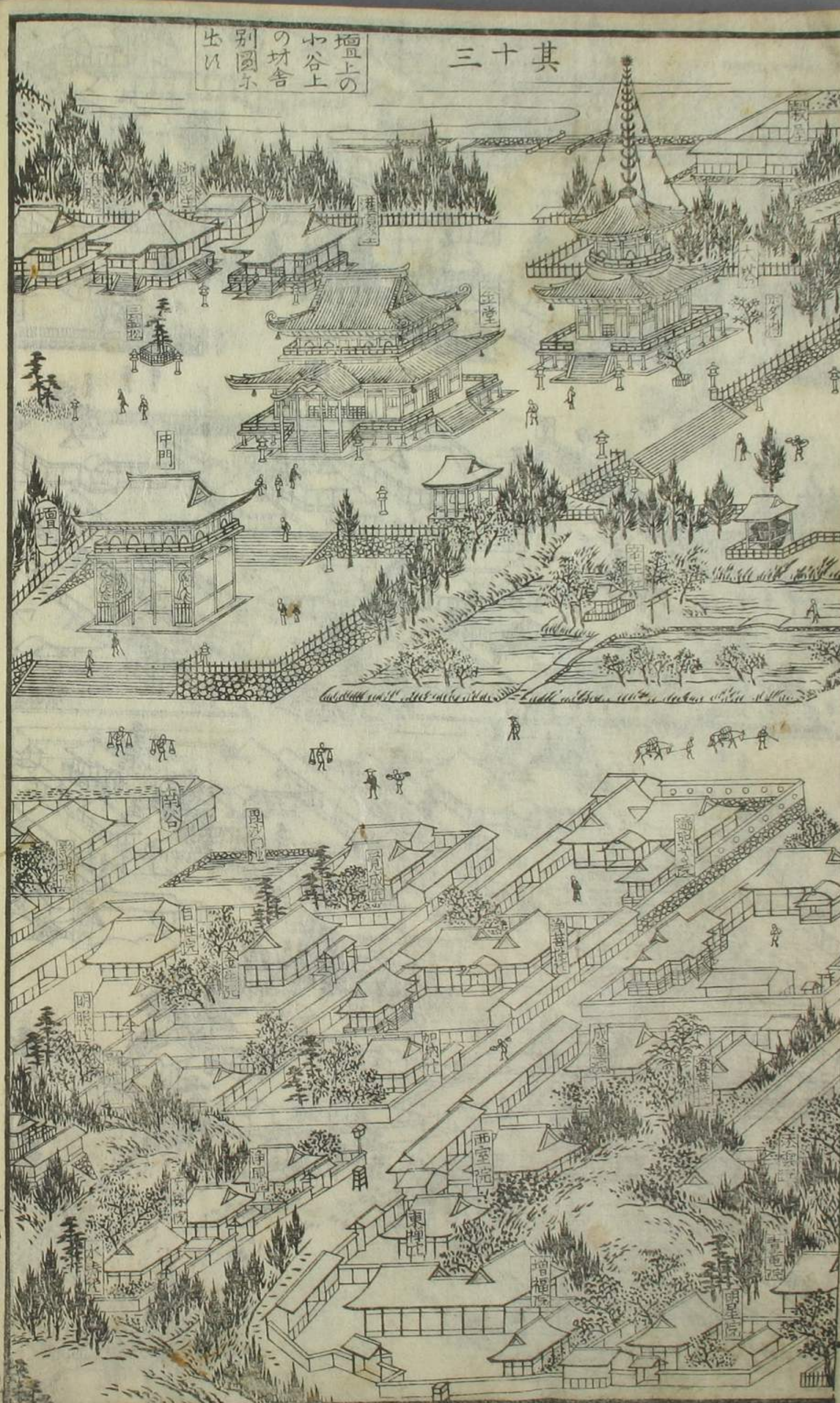
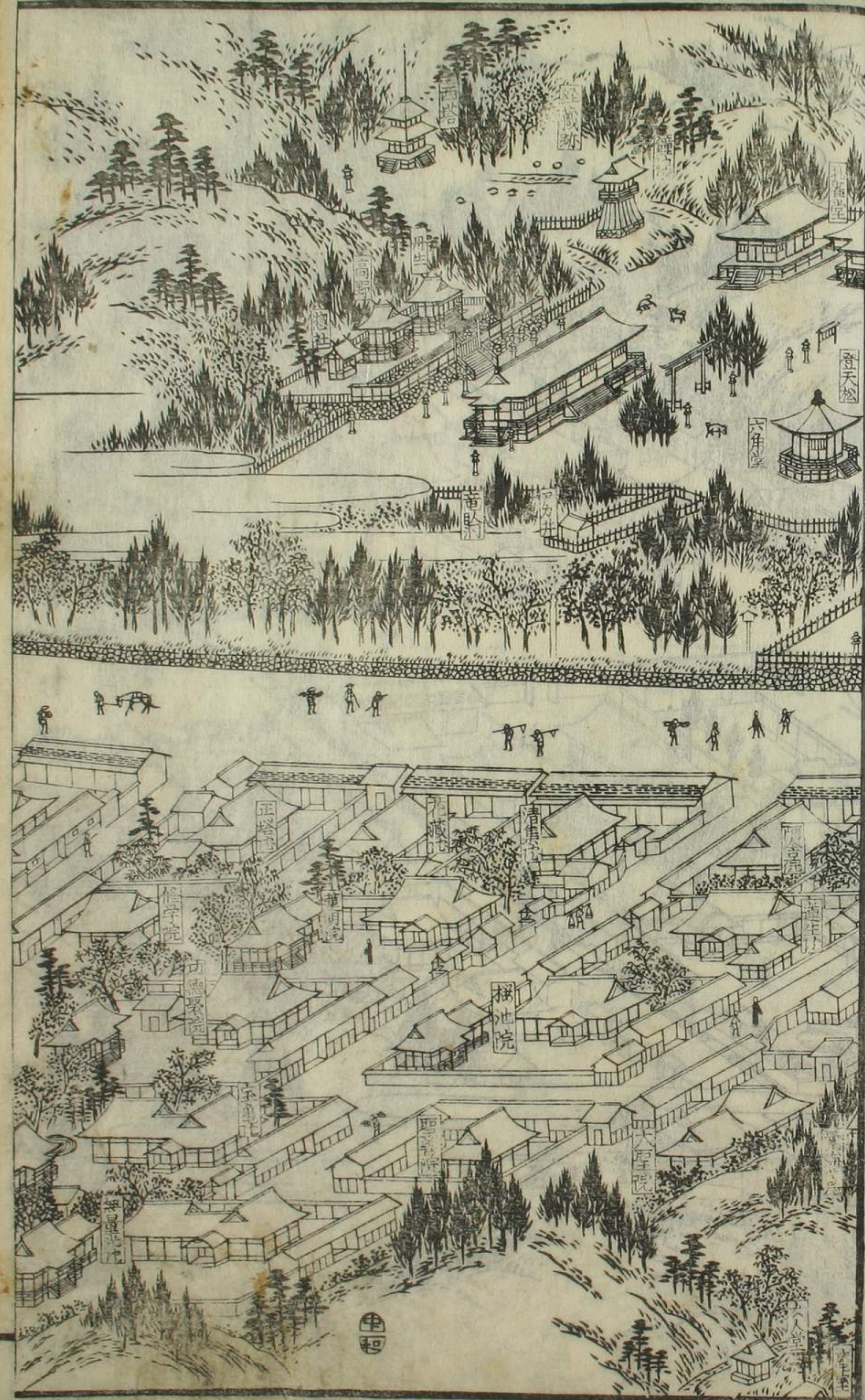
紙三編四十四



其十二

此寺法堂
その材全
木造なり

三十一



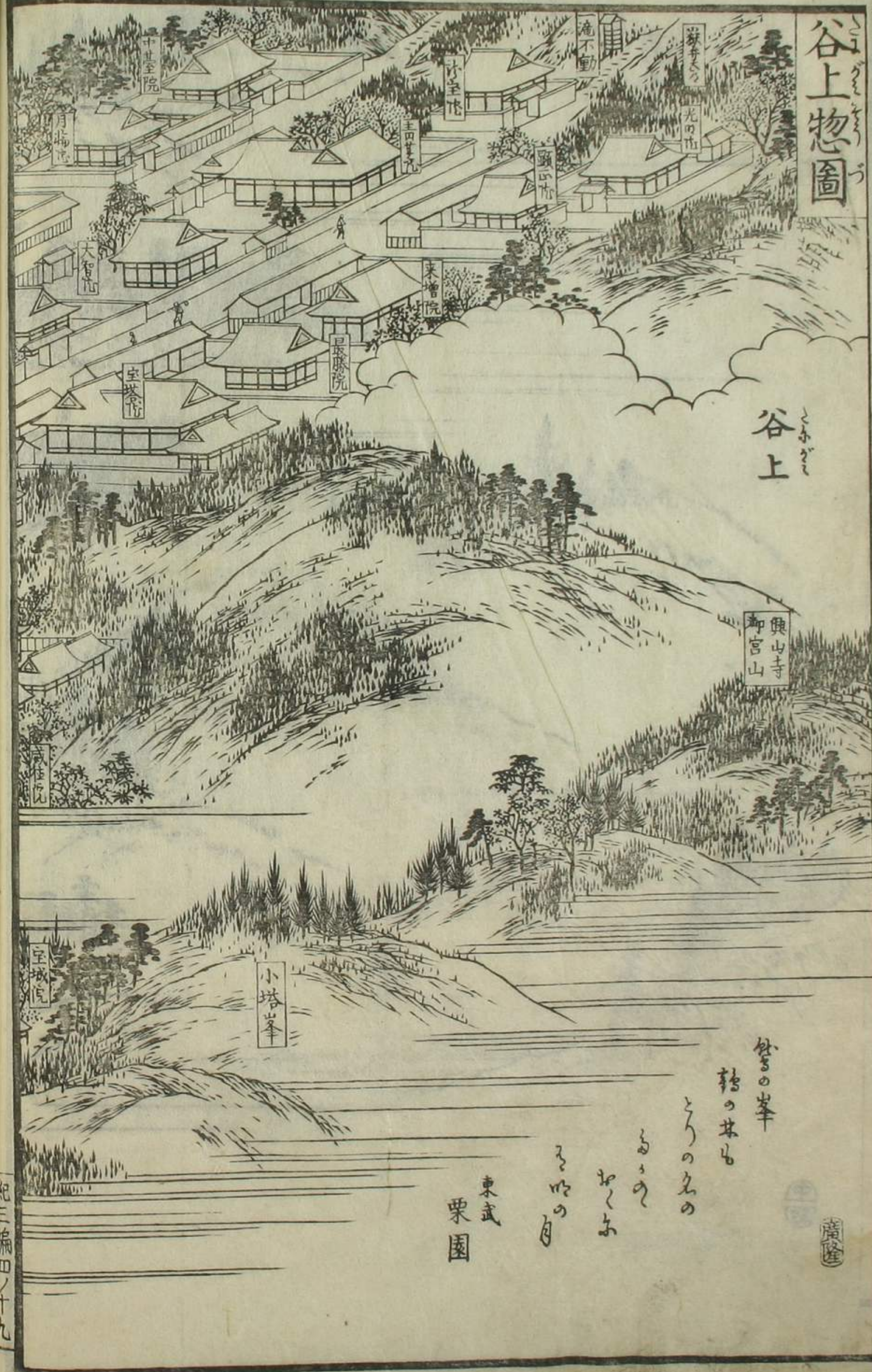
其十五



甲和



三十三



谷上惣圖

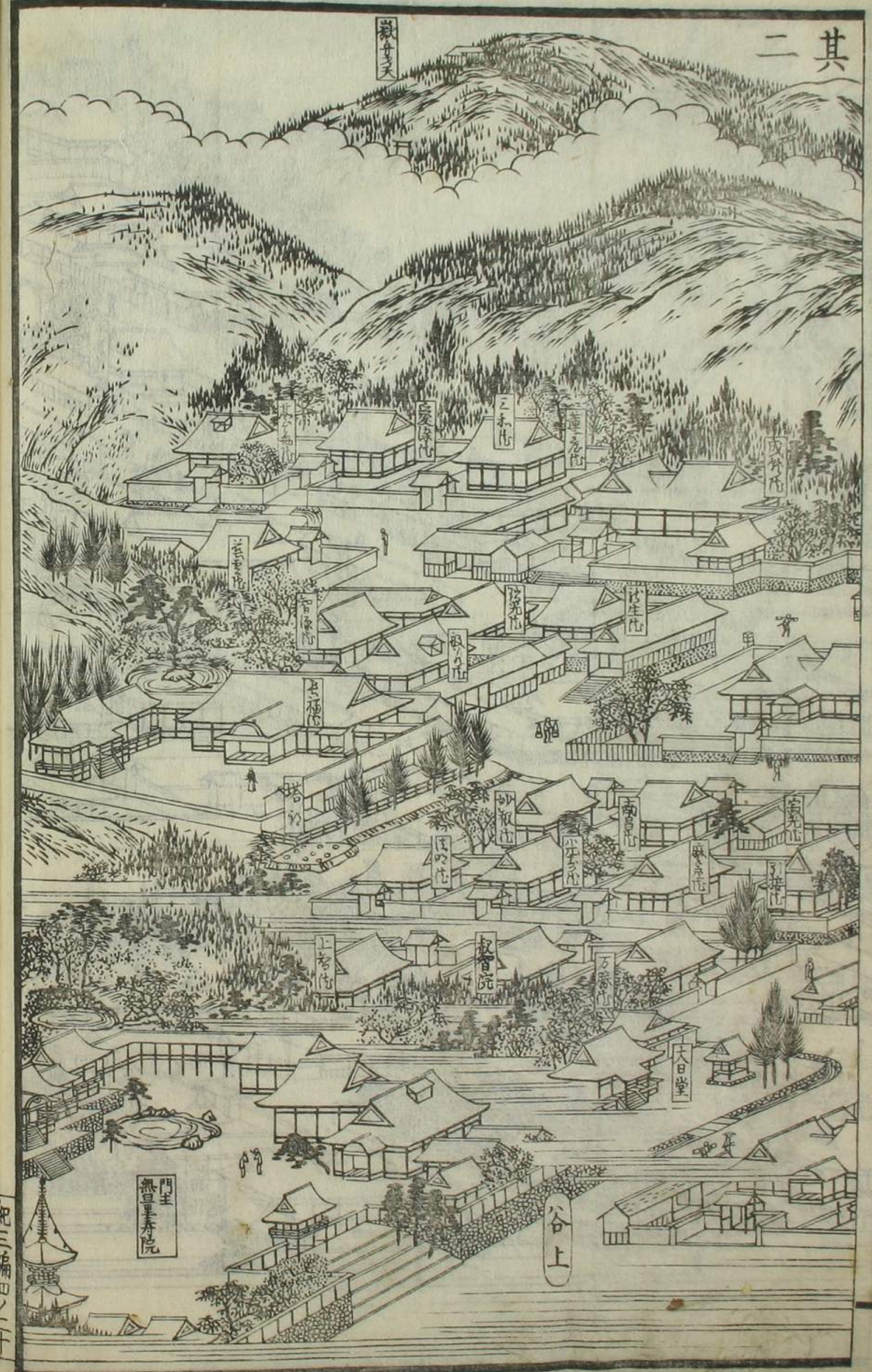
谷上

興山寺
柳宮山

小塔峯

谷の峯
 結の井も
 とりの名の
 るうの
 やくふ
 るのの
 東武
 栗園

廣隆



以下千手院谷五之室谷一心院谷惣圖

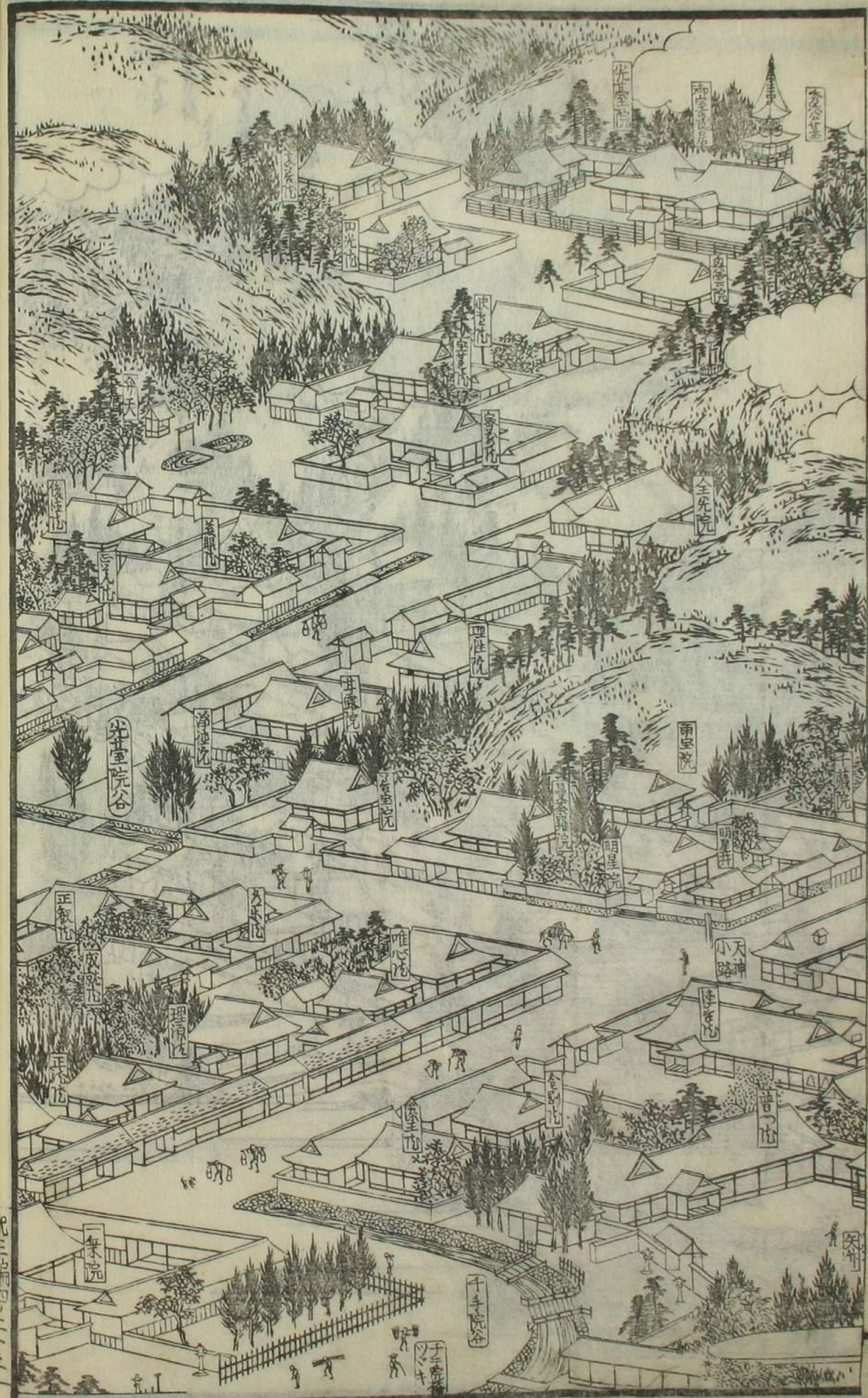
千手院谷



千手院谷
寡婦人

廣隆

紀三編四ノ下



高野山金剛峯寺又南山 真言宗古義本山

當山ハ本國伊都郡の東南ふ峙り第鬱として杉槲八面を圍半天別ふ一畷をかり天下無雙の名區りて往昔開祖大師靈境を覓く周く天下と廻り給ひ去の地小志く所ありとて入唐帰朝の後御年四十三歳 帝許と夢と修禪入定の地と給へる靈場なり其高野山といひ高山の頂上ふ平原曠野わると以くなすべし創開の時ふ當りて二神の出現し双大の前導し飛鉦の松梢ふ掛り寶劍の地上ふ跡もろ杯皆大師行徳の至る処凡俗の得く思儀すきふらら其後世々の聖帝攝祿運歩の勞と厭い給へる登嶺在一車載て記籍ふ顕然り今山上ふ在如の坊舎惣して一千計ありて結構奇悪言語の及ぶ所ふあらず坊舎屋上悉檜皮よりて昔けり古の瓦も昔の瓦のまじりしりも法ぞ真雅僧正當山圖記ふ徑途廻りとて躋り

三十里山嶽疊々として屏らりたり千万御周匝る連峯ハ法身の花臺と表し正平なる幽原ハ化佛の浄土ハ類ハ惡獸毒虫も斯ふ趣もも曾て害心な煩惱即菩提の理觀深谷高峰も徑を経る亦嶮難なり生死即寂靜の道察へ一終ふ影と指者ハ往因と恨ぶ黙して止る者ハ前業と恨むべし又東山信禪師の曰日域の佛土ハ定く是南山あり近く大師の入定遠く則古佛の靈跡我彼峯ふ登りて夢ふ十方の佛菩薩集會一或ハ無相の理と説く或ハ法佛の法と説給へと見る云是等の文と見て當山の靈場地類なりを知るべし

今准禪經説深山平地充宜修禪空海少年日好涉覽山水從吉野南行一日更向西去兩日程有平原幽地名曰高野計當紀伊國伊都郡南四面高嶺人蹤絕今思上

世靈集弘七年上表

奉為國家下為諸修行者艾夷荒數聊建立脩禪一院經
中有誠山河地水悉是國主之有也若比丘受用他不許
物即犯盜罪者加以法之興廢悉繫天心若大若小不敢
自由望請蒙賜彼空地早遂小願然則四時勤念以答兩
露之施若天恩允許請宣付所司輕塵宸宸伏深悚越沙
門空海誠惶誠恐謹言

○

領地 其廣狹屢合華跡今領地紀川の南數十庄合せて二万石を
三代實録云

大師語記云

弘仁七年 嵯峨帝賜官符曰空地一處在伊都郡以南
深山中曰高野四至四方高山東限丹生川上峯南限當
川南長峯西限應神山北限紀伊川南峯云々
清和天皇貞觀十八年秋七月九日丁酉金剛峰寺水
陸田三十八町在紀伊國伊都郡賀名草牟婁四郡赦免

其租水為寺田

延喜壬戌式云

金剛峯寺料五千六百十六束同寺燈分并佛聖料二千
八百束

同

允金剛峯寺九月廿四日修功德料米十斛油一斛以紀
伊國正稅辨備國司檢校前會十日運送寺家

○臨幸

宇多法皇 昌泰三年 白河上皇 寬治二年 同五年 大鳥羽上皇

長養元年 以上三度 後宇多法皇 正和二年 後醍醐天皇 延元

光嚴天皇 正平七年

○親王家御登山

大御室性信法親王 康平二年 覺行法親王 永長 覺法法親王
大治二年 聖惠法親王 大治五年 覺性法親王 仁平 守覺法親王 安
三年 道法法親王 壽永二年 道助法親王 建永 道性法親王 同上

法皇高野山詣



高祖大師ハ即
身成佛也
あまのついで
と量りて
十方世界にわたる
無量の衆生
を濟度し
りしもの也
伝ゆらん
高野山へ
来訪して
値遇の因縁也
法皇高野山詣
白河院
堀河院鳥羽法皇天啓
より興院まで玉砂
路を二歩これめ
るは



道深法親王三年 護良親王元年 靜覺法親王二年 應仁任助
法親王二年 尊性法親王六年 覺深法親王四年 寬深法

○大臣家御登山

御堂關白道長公治安三年 宇治關白賴通公永義三年 京極師實
公永保元年 兼德内大臣師通公嘉義三年 宇治入道忠實公
天養左大臣賴長公久安四年 平相國清盛公久安五年 松殿禪定
基房公貞應元年 大宮太政大臣公經公貞應元年 光明峯寺
道家公建長二年 高園院關白師忠公乾元二年 逍遙院内大臣實
隆公永正二年 近衛龍山公文祿三年

○將軍家御登山

足利尊氏公觀應二年 同義詮公延文二年 同義滿公明德應永同
義持公應永二年 同義教公永享二年 豐臣秀吉公文祿三年

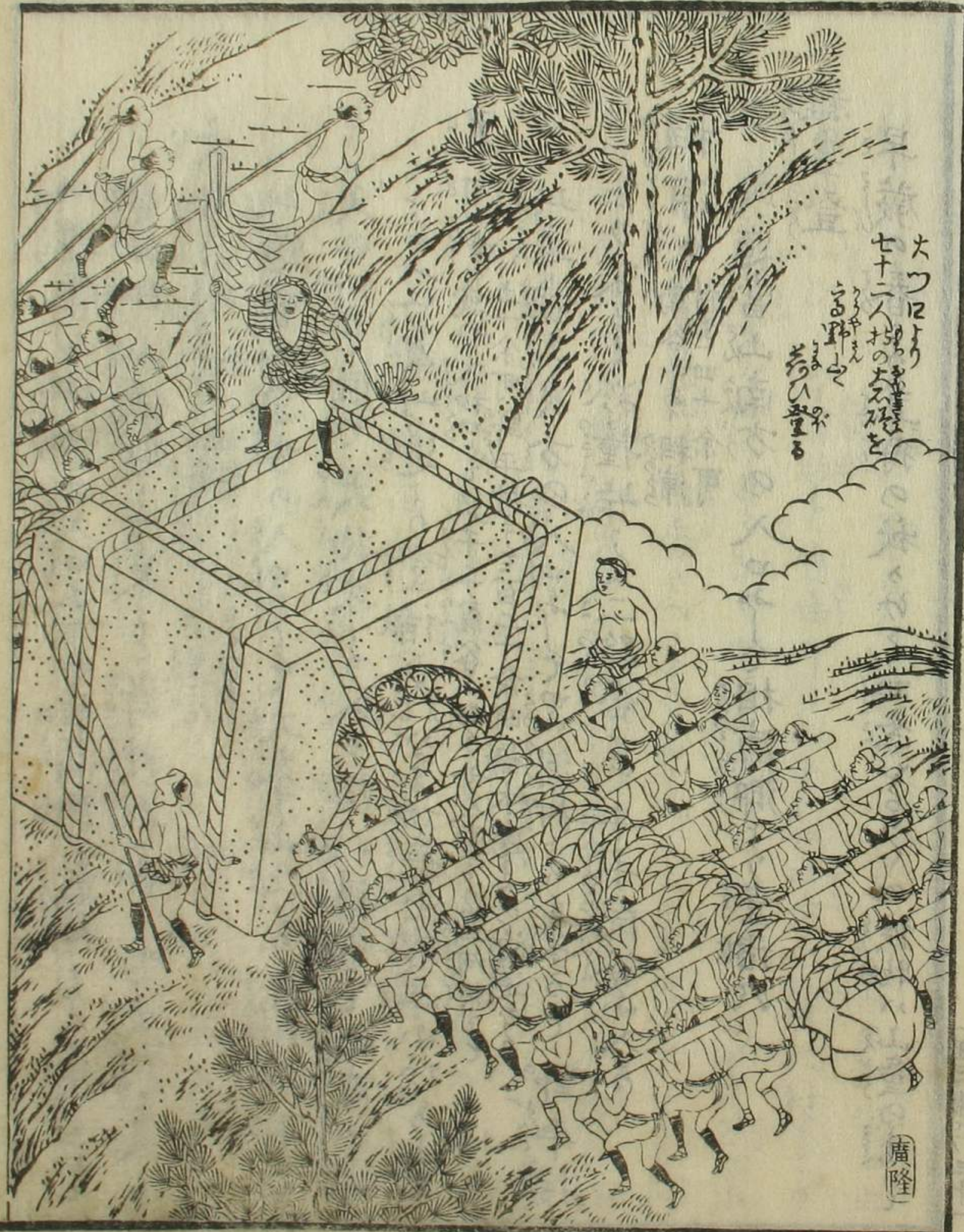
東照神君同三年

自餘月卿雲客諸宗の高僧碩徳登山の遺跡ホ少々有と

○登山七路

大門又西口といひ矢立口麻生津口若山口

此道當山西方の入口なり慈尊院の廟を拜し坤小向ひ
て攀躋るも赤も 帝王の臨幸し給ふ道ふして山
路迂廻なとも嶮あらば文永年間の町石今猶依然と
して町毎存と故町石道とて府下より登るもの
麻生津峠より志賀郷を経て矢立とて此道と合し大門
ふ入る故ふ若山口の名もあり
不動坂口又京口といひ一心院谷小田原谷あり
此道當山正北の入口ふして京大坂より紀伊見峠を越て



大つはより
七十二人の大を
ついで

来るものと大和路より待乳峠を越てあるものと清水村
二軒茶屋を合ひ學文路と經てよの道より登詣とる
もの十ふ八九なり

以上二路下條ふ詳より

大龍口熊野口より

此道當山東南の入口より熊野本宮詣て夫より絶嶮の

深山幽谷と經て凡十五里少くも高野ふ至る

八鬼尾谷本宮より 七色茶屋八鬼尾谷より 八町茶屋

〇石楠辺八町 〇矢倉百町 〇三浦峠五十丁 〇寒野川二十町

〇松平十八町 〇上西三十町 〇かやぶや二十町 〇大又十八町 〇水ヶ峯

〇大瀧五十町 〇高野山五十町

龍神口又湯川口より 保田口あひの瀬瀬口より

大門の左ふ通に龍神より十三里余

此道當山坤方の入口ありて日高郡龍神より来る也
有田郡山保田より来る也新村を合して大門に入る
大峰口 東口より野川口より蓮花

此道當山東方の入口ありて大峰山上より泥川ふ下り
天の川を徑て天拍木より入る俗此道筋を七度半道

と云ふ一皮此道より登詣れば功徳七度半ふつるとぞ
黒河口 或は大和口より千手院谷あり女人堂より黒河村まで

此道當山良方の入口ありて黒河村より來ると野平村
より來ると杉撞峠と二路合して千手院谷ふ入る

相浦口 南谷あり相浦村と四十余町
此道當山南方の入口ありて相浦郷より登詣に

○雑事登

早蕨の春より茸狩の秋けり四季と云く候物ハ山童の來り

いざと待とうて是を買つてとどと山上の一區の畝田もわ
らぬにわらひの青物を自由なれば四方の麓れ村より
四時の野菜がふるまふかくやると集めておのづから色ふ
しきゆい小附の花は色香へもさかると暑寒をいそげ
かの嶮峻山路を攀々大師の廟前ふりげ帰依の寺院ふ
るを雑事登と云ふ此事懈る年ハ其家必凶年ありといひ
せり又口の村ハ雑事懸といふのを造らして春の若菜
より種々の花などもとふ軒ふ鉤も垣ふ
置きの供養を運ぶ馬男新と肩つ山賤を早く見
つけ重荷ふとけゆる年一日も後もつすはふ
まね一苞と荷ふ添はれ道の間々禍を受る年ありと
ぞ是全く大師千載の威靈ふりり里人法徳不懐くる年
かくの如くかき寺の庫裏あり常ふ青物の山をふり

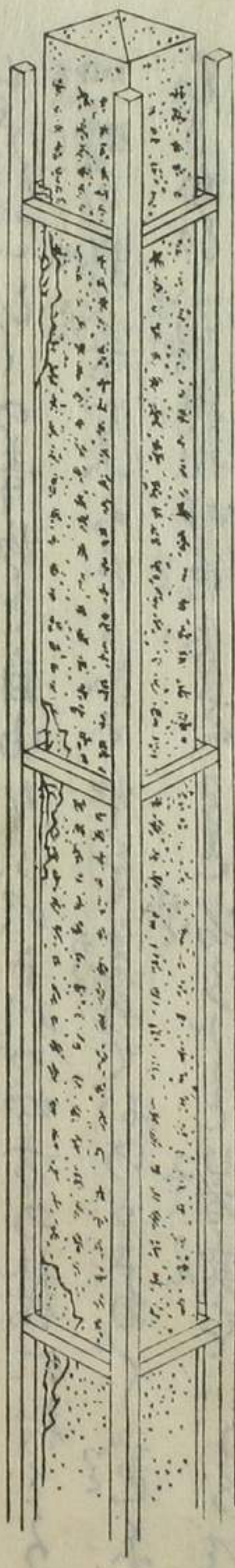
尊賓客を饗す不足りし僧侶も里人の勞を察ひやそ
 く其施物を珍賞し菜の葉は赤く志がびらるるも無下ふ
 捨らふ必ひしん
 寺僧かの野菜の屑れ全く捨らるるをいふまはか
 一矢報わり日某の寺小道者として食を乞ふに僕らのやうに今食物を乞ふも
 鹿菜の残らるるありとていひて我が四國をめぐらるる
 精進なりを鹿菜の下の食を乞ふとて去しと

大門口

慈尊院村 名倉村より當村まで川を隔て

下乗標石 慈尊院村の北路傍にあり法務權僧正定海
記せり長者補任ふより保延二年の建立なり

町率都婆供養碑 同所ふあり文字磨滅多し昔時加蓋の南門の
齋跡なりしを町率都婆のより下乗標石なり



下乗檄 大師の却書と模し
修し書ととと

慈尊院

慈尊院村より万寿山と号し此壇と

表門 西壇の惣 却廟 大師の母公將來三會の時を期し差小嚴然として葉
却廟の前ふあり水鏡御影弥勒菩薩御影 本尊弥勒菩薩 大師の御前作とし
母公の手判并ふ大師講表の佛具とて如し 二重塔 拜堂の西 本尊
万徳兼備の尊なる慈を主しとて又慈尊院の二重塔 拜堂の西 本尊
御名あり因て弥勒の壇と名氏寺といひ明神の壇と神通寺といふ

大日如來 此塔弘二年中大師創造なり後弘上り 訶利帝母社 門の右に
田所某再建す又天文の洪水に流亡し又再造り 鐘樓 護摩
護摩堂 御廟 大師堂 門の右ふあり鳥有のり寛保二年再建す 鐘樓 護摩
の東 大師堂 堂内四十八箇所の本尊と安置す 鐘樓 護摩
の東 大師堂 堂内四十八箇所の本尊と安置す 鐘樓 護摩

五輪二基 長安二年の建立銘あり 持經上人宝藏と建立し 阿遮
堂内四十八箇所の本尊と安置す 鐘樓 護摩

梨寺 大師堂の西ふあり中橋氏の元祖大師の孝子ふ伐り 聖母 侍衛 侍衛はり代々
朝前小奉仕しり第九世光誉在俗の身繫かりとて 阿彌陀堂 縁起
阿彌陀堂 宣旨ありて永く寺号となまり是 阿彌陀堂 縁起

三十番神堂 阿彌陀堂の
後弘上り 阿彌陀堂 縁起

弘仁年中大師南山を開き此處と政所と号し陪從の者少く
て一山の貢物雜事を出入納の事と司らるる弘仁大師御在世山上
山下堂塔住坊負あり中ふ下院といふ是なり 永和元年母公

山下堂塔住坊負あり中ふ下院といふ是なり 永和元年母公

山下堂塔住坊負あり中ふ下院といふ是なり 永和元年母公

山下堂塔住坊負あり中ふ下院といふ是なり 永和元年母公

山下堂塔住坊負あり中ふ下院といふ是なり 永和元年母公

山下堂塔住坊負あり中ふ下院といふ是なり 永和元年母公

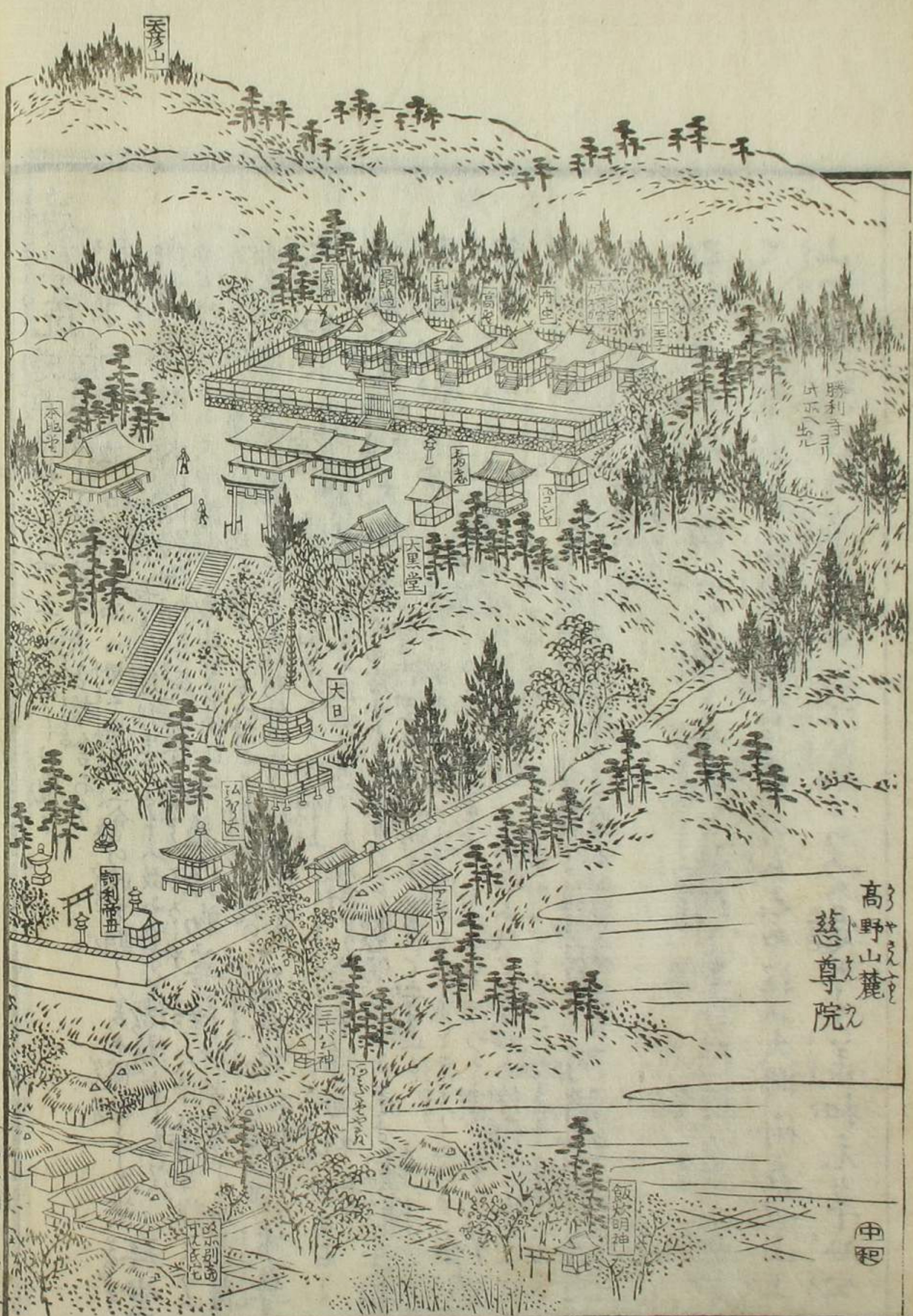
山下堂塔住坊負あり中ふ下院といふ是なり 永和元年母公

山下堂塔住坊負あり中ふ下院といふ是なり 永和元年母公

山下堂塔住坊負あり中ふ下院といふ是なり 永和元年母公



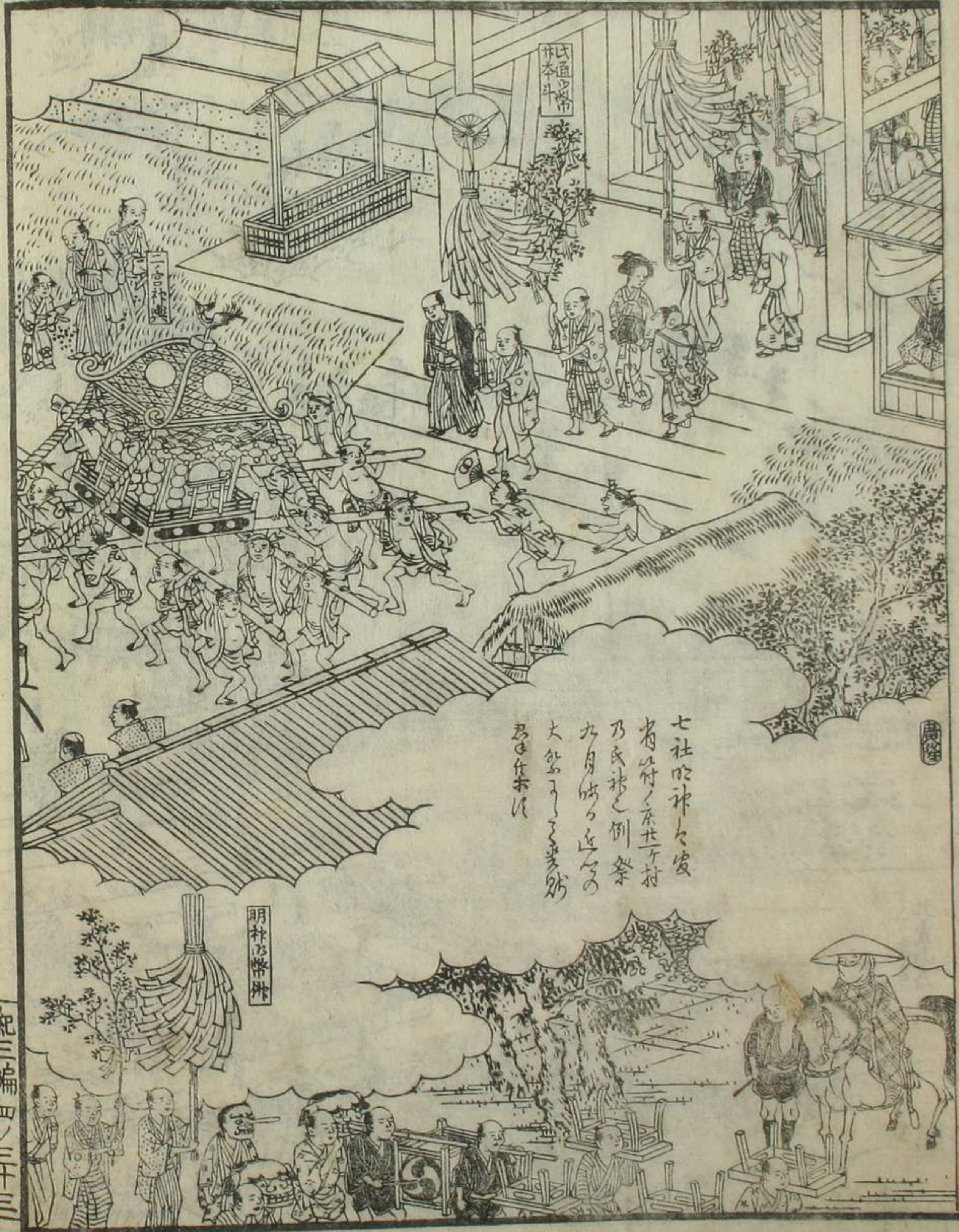
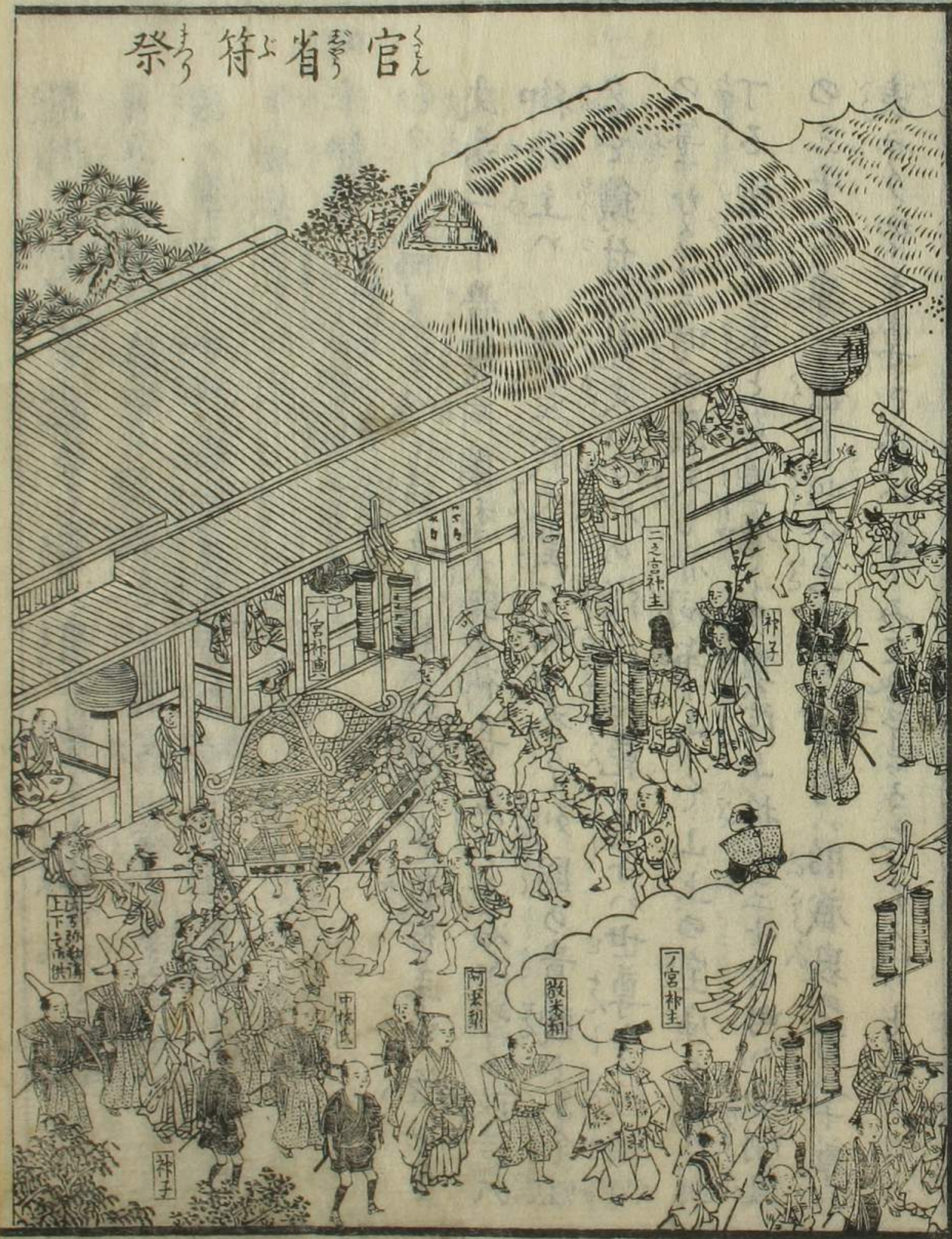
九尾山乃



高野山麓
慈尊院

中

官省符祭



七社の神々
 省符の祭に
 乃氏神の例祭
 九月廿三日
 大勢の参り
 是日在来

讚州より大師と慕ひて愛ふ來ると暫く山棲の地と以て明年二月五日入寂し給ひて全身を廟窟に藏し奉り甚深不思議の事多し母公ハ弥勒慈尊の垂跡と云聞白夫より慈尊院と通称とす

町率都婆 二重塔の南路傍あり百八十町あり

ひう大師末と云く造立し給ふ朽腐して數百年と経たり
文永二年覺敷阿闍梨大師の御告と蒙り石を以て改造し
御施主ハ 後差我天皇と始め奉りて列國の貴賤を以て姓
名を鑄付く梵文ハ小川の僧正信範漢字ハ世尊寺經朝卿
の筆なり其時の願文も亦同筆なりて山上の宝庫あり此
丁石壇場と本とを壇場より奥院に抵る三十七町ハ金剛叟
の三十七尊と標し此に至る百八十町ハ胎藏叟の百八十尊ハ
表はりかゝる尊と道ふとみて登望するはたゞしと

帝王既ふ當所の下乗は檄より玉の御璽と下りてせ給ひ町こ
とふ懇ふ御持念拜礼ありて玉歩とすめを給へりしと

續千載 正和二年去皇宮御幸はるはるの給ふこと
多野山と云ふの跡ハむかしの跡をいふ今をいふる 僧正道順

七社明神

本社 舟生四所明神と伊勢八幡春日の末社本社の左右あり十二 長床 本社
舞臺 長床の左 本地堂 舞臺 鐘撞堂 舞臺 大黒天祠 北あり 御
供所 大黒殿 鳥居 の上 塔尾辨財天祠 社地
○神寶 太刀四振 三振ハ永正十四年國次の銘あり

當社の官省符庄廿一箇村の惣氏神と称し九月晦日と祭ふ日と
して各村の氏子群参して神輿渡御の式あり是と官省符祭
と云ふ神輿を昇るの數十人石壇と下りて事空中と飛りて
渡御の行列美くくくするの驚歎せむいな 抑官省符

庄古ハ一圓金剛峯寺領ナシ此政所せんせうハ當社とうしゃヲ建テ庄しやうノ鎮

守しゆトシトス

○中橋氏なかつし 慈尊じそん院村いんむら 先祖せんぞ元忠げんちゆうハ阿刀あとう大足おほあしガ三男さんなんナリ弘仁こうにん七

年ねん大師だいし高野たかのトシとシきトまトす一日いちにち隨從ずいじゆうトシと來きトまトす美和みわ元年げんねん

母公ぼこう此こゝ來きトまトす給たまヒし時とき中橋なかつし母公ぼこう不あ隨まトす政所せんせうノ別當べつたう不

任まトす官省符くわんしやうふノ庄しやうヲ支配しはいス此家主人このいえしゆじん三綱さんかうノ中なレ上座じやうざノ

職しやくヲ勤つとメ古記こき不あ上綱じやうかうノ稱なづニ々な々な故ゆゑ今いま不あ傳たづトす

上綱じやうかうト稱なづニ母公ぼこう大師だいし共とも不あ寂じやくノ後のち元忠げんちゆう剃髮しはつトす

常じやう不あ上綱じやうかうト稱なづニ元慶げんけい二年にねん九十三くわじゆうさん不あ卒すまニ不あ後家系のちのけけい

連綿れんめんトシと絶たスべ毎年まいねん三月さんげつ壇上だんじやうノ正御影せいごえい供くニ登山とうざん

トシと獻備けんびノ品しんヲ点檢てんけんス事ことト家格けかくト守當家しゆうたうけ先祖せんぞ何某なになん

聖母せいぼノ靈告れいこくありて往古かうこハ當家たうけト精膳せいぜんヲ備そなヘとあり

故ゆゑカとスべトス

